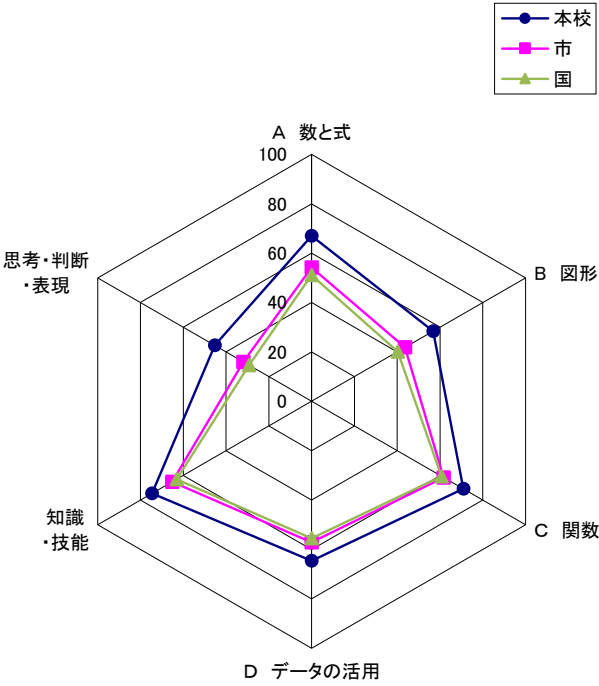


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	67.0	54.2	51.1
	B 図形	56.8	43.6	40.3
	C 関数	70.9	61.7	60.7
	D データの活用	64.6	57.1	55.5
観点	知識・技能	74.6	65.2	63.1
	思考・判断・表現	45.3	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○正答率が全国平均を15.9ポイント上回っている。 ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題で全国平均を上回っているが差が少なく、正答率は54.6%である。	・基本的な計算の技能はある程度身に付いている生徒が増えてきた。今後も基礎学力向上のため反復練習の学習を続けていきたい。 ・授業で学んだ基礎的なことを活用して説明する活動をこれまで以上に取り入れて式の意味を理解する、理由を説明することができる学力を身に付けさせていきたい。
B 図形	○正答率が全国平均を16.5ポイント上回っている。 ●事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす問題で全国平均を上回っているが差が少なく、正答率は41.4%である。	・図形に関する知識・技能については身に付いてきている。今後はさらに筋道を立てて説明する力が不十分な生徒の学力を高めるために、問題が何を意味しているか捉えさせる活動や言語活動をより多く取り入れていく。 ・図形の問題を指導するときに新たな性質を見つけ伝え合う活動を取り入れることで図形から性質を見いだす学力を身に付けさせていきたい。
C 関数	○正答率が全国平均を10.2ポイント上回っている。 ●ストープの使用時間の違いが強と弱でおよそ何時間になるか求める方法を、式やグラフを用いて説明する問題で全国平均を上回っているが差が少なく、正答率は30.8%である。	・表・グラフ・式との関連性を意識した授業を取り入れることにより、問題に合った解決方法を選んで問題を解くことができるようになってきている。 ・応用問題で実際の生活場面に関する問題を取り入れ、自分の言葉で説明し解決する力を付けるための活動を多く取り入れることで学力を向上させていきたい。
D データの活用	○正答率が全国平均を9.1ポイント上回っている。 ●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では全国平均を上回っているが、差が少なく正答率が37.8%である。	・箱ひげ図の読み取り方、確率の意味についての基本的な知識・技能についてが身に付いてきているので続けて学力を向上させていきたい。 ・実際の生活に即した問題からデータの傾向を比較し、データが何を表しているかグループで伝え合う活動を取り入れ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる学力を身に付けさせたい。